

浄相院  
だより

# 寿光

第68号

平成27年3月10日

発行：浄相院  
畑中芳隆

〒332-0035  
川口市西青木1-10-34  
TEL 048 (251) 5984  
FAX 048 (251) 5792



## 帰りたい

まだまだ寒い最中ですが一雨ごとに着実に春が近づいている気がわかります。春彼岸が巡ってまいります。

この春には、今まで長野までだった新幹線で終着駅の金沢に着くというのは驚きです。これを機に旅行を計画している方も多いのではないのでしょうか。

この季節の旅行は快適でしょうが楽しんだ後はやはり慣れ親しんだ我が家が恋しくなります。帰るべき場所があるからこそ安心して旅が楽しめるのです。

さて、「彼岸」とは文字通り彼の岸のことであって私たちが住むこの世界の向こう岸にある極楽浄土のことです。

お中日（春分の日）を中心に一週間に布施（めぐみ）・持戒（いましめ）・忍辱（しのび）・精進（はげみ）・禅定（しずけさ）・智慧（ちえさとり）という六波羅蜜（六つの正しい行い）を実践していく期間とされています。

たとえば布施というとお寺に納めるお金とすぐに思いがちですがそれだけの意味ではありません。「無財の七施」財産を必要としな

①眼施（相手にやさしい眼差しをする）

②和顔悦色施（相手ににこやかな顔をする）

③言辞施（ありがとうなどのやさしいことばで接する）

④身施（重い荷物をもってあげるなどの自分の身体でできることで奉仕する）

⑤心施（他のために心を配る）

⑥床座施（席や場所を譲る）

⑦房舎施（泊まる場所を提供する）

いかがでしょうか。これならば日常的にやっていることもあるのではないのでしょうか。お布施の大事な点は喜んでおこなうこと、した後後悔しないこと、その行為自体を忘れることにあると説かれます。そこまで考えると完璧な実践はなかなかむずかしいのかもしれませんが。

法然上人はご自分を「三学の器にあらず」（六波羅蜜などの厳しい仏道修行ができる器

ではない）と称してただ一心に阿弥陀仏に救いを求めるお念仏の道を示されました。

私たちの命はこの世（此岸）においては有限であり誰しもが命終を迎えます。しかし私たちはその後救われてゆく極楽浄土（彼岸）があることを信じています。そこが終着駅であることを信じています。だからこそ安心して日暮させていただけなのです。

最後のその時をどこで迎えたいかという質問には大半の人は病院ではなく自宅で迎えたいと願っているそうです。私もまたそう思います。帰りたいのは自宅であり、さらには彼岸（極楽浄土）です。

お念仏には「臨終行儀」という尊い作法があります。まさに命終のときにその方の枕辺でお念仏をお称えしていただきながら看取ってさしあげるものです。環境が整わないと実は難しいですが「帰りたい」と願う方が安心して彼の岸、極楽浄土に想いを馳せていただけるとの機会は大切に思います。

幸いなことに私たちの普段のお念仏が最後のお念仏に通じます。お称えをしてゆく中大切な方が待つ極楽浄土を願う気持ちが湧いてくるように存じます。

共々にお彼岸をお迎えいたしましょう。

（住職 畑中芳隆）